

座薬「ボナノール」と型も中身も全く同じロケット型のホワイトチョコや一箱が3kgもあるレンガ型の業務用チョコを贈られた事がある。愛の告白とも思えないし、何より食べ難い。処置に困っている内にホワイトデーが来た。お返しをするべきか迷ったが夕食を奢った。ボナノールの効果どころかひどい出血となった。

今年もバレンタインデーがやってきた。この日が来ると老若美醜、軟硬貧富の別なく男はそわそわと心中不穏となる。本来のテーマに關係ない愛の告白とチョコレットを主役にしたこの情動的なトリックに嵌まって40年、私の純情は何度欲喜と失望の間で周章した事か。

今年で還暦、やっとこの呪縛から解放された。一寸未練も残るが良い頃合である。僅かに残った男の器量と面目は他で保つ事にして。或る年、これ以上無い

藤田 國廣

産業春秋

題字 今井 敬氏

というゴージャスなハート型のチョコが差し出し人無しで届いた。ベルベットの箱に金色のリボン、「LOVE」とレリーフまである。思い当たる節が有る様で無い。15年程記憶を遡ってみたがやはり無い。となると



グッバイ・バレンタインデー

又炊事に戻った。何かホツとしたが私としてはせめて一週間位は机上に飾って彼此と斟酌してみたかった。しかし既に瓦礫の様になったチョコから艶で妖しげな気配は消え失せていた。後日ふっとアレは妻が送った謂わば踏絵チョコでは……と勘繰ってヒヤリとしたがその後もし隠れキリシタンにお咎めは来ていない。俗趣なイベントと揶揄する歳となったが「愛とチョコ」を登場させた誰かさんのセンスと才覚には脱帽する。煎餅や饅頭ではこうは

今度は一寸不気味であり食べるにも勇気が要る。緊張し乍ら家に持ち帰り曖昧な作り話と一緒にテーブルに置いた。チラッと眼を合わせた妻は無表情に中身を取り出し包丁の柄でパキンと割った。そしてその欠けらを一ツ口に放り込み「うまいやん」と一言云った丈で構な心と時間とお金を消耗させられる。それも2〜3倍返しに当たり前らしく同額以内で返したものでなら「ケチ・ホケ・変態」と罵詈雑言、人非人の様に云われるらしい。「お為」でも5割「快気祝い」でも最大同額返さる。頼むからこのルールは止めてもらいたい。……色々想いも言いたい事もあるがもはや野暮というものだろう。もう殆どこんな難題が降り懸かる事も無いだろうし、心はバレンタインデーやクリスマスから子供の頃の桃や端午の節句、七夕や土地土地の伝統的なお祭り等の節日に憧憬を寄せる様になって来た。今日、都会でそういう風情は望むべくも無いが、ゆっくり探せば日本の何処かに日本の素晴らしい心や想いを伝える習慣がきつと残っているのだろうと思っ

(メタルドゥ社長)